

金4個、銀 〇個、銅 〇個。今回のロンドンOlympicで日本が獲得したメダル数である。メダルの数からいけばものすごい進歩である。今までとったことのないような種目があればよあれよと勝ち進んだ。とくに団体戦の活躍はすごかった。近年にない活躍であったようだ。

何故、日本がこのように活躍していったのか。

卓球女子団体で銀メダルを勝ちえた。福原 愛、石川佳純、平野早矢香たちはインタビューで「メダルを取れたことは嬉しい、被災地の子供たちとの約束が守れたことがもっと嬉しい。」というコメントであった。こういう気持ちの持ち方でもそれなりに違ってくるであろうし、そうなくてはならない。でも、はたしてそれだけであっただろうか。

世界の行動情勢（社会情勢）は、Olympicの年には最悪となるといわれていて、異常気象や、エルニーニョ現象などもこれらに影響されているといわれている。そのように世の中の気運、情勢、動き等々すべてが環境などの我々が生きているこの地球に影響するものだ。というのは、数年前「気の研究」をされていた佐賀県の品川先生から聞いた話である。さて、本題に入ろう。

全国高校総合体育大会が長岡市で開催された。大会役員として日本水泳連盟の副会長、青木 剛氏とお会いしてお話する時間が持てた。今回、オリンピックで成績が良いというのはJISSによるところの影響が非常に大きく、世界でメダルが取れる可能性がある種目・競技には競技分析がされさらにメダルを確実にする。競泳の「チーム北島」のチームというのはそういう意味だそうである。強くなってメダルをとるということは、こういう分析力を得るという事で、それをするためには、飛び込み競技の個々の力ではなく水泳連盟としてメダルをとれる可能性があるという事をアピールしていかななくてはならない。それがチームというものである。

だから、飛び込み競技も頑張らなくてはいけない。よく言われる卵が先か、あとかということである。競技分析をされるまで、土俵に上がるまで頑張っていきましょうや。ということである。もちろんその後の活動も大切である。そして、ある程度メダルが見えてきたら勝負をかけましょう。メダル奪取の勝負を……。